

科目担当者氏名		科目担当教員氏名
(ふりがな)	しらはせ たつや 白波瀬 達也	
連絡責任者氏名		担任教員氏名
(ふりがな)	みうら こうきちろう 三浦 耕吉郎	関西学院大学 社会学部
授業科目名	科目認定番号	受講者数
社会調査実習 I	KS Ga - 090717-0	7

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：
調査を実施するまで、学生たちは貧困や社会的排除の諸相について身近に感じる事ができず、比較的受動的な態度をみせていたが、実際に調査に入ると、これまで授業で聞いてきた話が具体的なものとして理解できるようになり、主体的に取り組む姿勢が顕著になった。各自が関心のあるテーマに取り組み、限られた時間のなかで質の高い調査をしてくれた。

II. 調査の企画・設計 (デザイン)

1. 調査のテーマ/領域：現代日本社会における貧困と社会的排除の諸相に関する調査
2. 調査の内容/概要：われわれの生活の身近な現場に貧困と社会的排除が存在することを把握し、それを具体的な調査行為を通じて明らかにする。
3. 調査の範囲/対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：調査は貧困や社会的排除といった状況に直面している当事者および彼らの支援者を対象にした。対象者の選定は知人のネットワークをできるかぎり活用し、身近な問題として貧困や社会的排除をとらえることができるよう配慮した。
4. 主な調査項目：当事者・支援者のライフヒストリー、貧困/社会的排除の経験の解釈、将来的展望

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：文献調査、聞き取り調査、参与観察
6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：夏期休暇に全体で西成区の釜ヶ崎フィールドワークを1回おこない、あとは後期の各自の必要に応じて複数回の調査をおこなった。調査地は受講者ごとに異なる。
7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票数及び回収率を必ず記入）：先行研究との重複を避けるために最大限の努力をしているため、得られたデータはいずれも重要な知見を有していると考えている。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析/解釈の方法：データをそのまま解釈するのではなく、それまでの先行研究のなかに位置づけて、データを意味づけるよう尽力した。
9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：当初の目論見どおり、身近なところに貧困や社会的排除が存在することを学生自身が自らの皮膚感覚で経験できたことが本実習の最大の成果だと考える。また、先行研究であまり触れられていないテーマや地域に積極的に取り組んだため、いずれの調査も目新しい知見に溢れている。
10. 報告書刊行の予定と概要：

- <記入上の注意点>
1. 調査のテーマ毎に用紙を替えて(3つのテーマを立てて実施した場合は合計3枚に渡って)ご記入下さい。
 2. 最上部の*印の箇所には数字を(*/*)には、報告書が複数枚になる場合のみ、3枚中の1枚目なら1/3とご記入下さい。
 3. 全ての項目について具体的にご記入下さい。但し、1テーマ毎に印刷が必ずA4サイズ1枚に収まるようにして下さい。フォントサイズは変えず(設定してある通りにして)、項目毎に分量に応じて「行の高さ」を変えることで調整していただけましたら幸いです。
 4. 報告書はウェブ上で公開する予定です。また、調査実習情報をDB化することも検討しています。ご承知置きの上、ご記入下さい。